

第1章 ふくおか国際化推進プラン策定の趣旨

1 プラン策定の目的

21世紀を迎えた今日、社会、経済、文化などあらゆる分野において人、モノ、情報の流れはますます加速し、国際社会における相互依存関係が深まるとともに、情報技術（IT）革命などにより世界の動きが直接地域社会に影響を及ぼすようになってきています。

このような中、国や国際機関だけでなく、地方自治体にも国際化政策の主体としての役割が求められています。また、アジア諸地域との関係がより緊密化し、人的往来の拡大、在住外国人の増加や交流から協力への流れを受けて、住民やNGOなど民間団体の果たす役割もますます大きくなりつつあります。

本県は、アジアとの長い交流の歴史や地理的な近接性、多様な経済・文化・学術研究などの集積や恵まれた自然環境、国土構造上の優位性など本県の有する可能性を生かして、アジア諸地域との連携を図るとともに、地域レベルの相互理解を促進し、多面的な交流・協力関係を築き、アジアの交流拠点としての地域づくりを進めてきました。

今後、グローバル化の流れを正しく認識し、これに適切に対応するためには、世界の諸地域との連携を図りながら、国際的な経済・文化活動や国際協力の促進、学術・研究の拠点整備や産業経済の基盤整備、県民一人ひとりの国際理解、異なる文化をもつ人々とともにくらす地域社会づくりなどの広範な分野において、新しい潮流と将来の方向を見据えながら地域の国際化を総合的に推進していく必要があります。

本県は、1997年3月に「世界と共に創る新たな21世紀～アジアの交流拠点ふくおかの実現」を基本目標とする「福岡県国際化推進プラン」を策定し、これに基づいて多くの施策を推進してきました。この間の成果と情勢の変化を十分に踏まえ、本県の特性やポテンシャルを最大限に発揮し、幅広い県民のニーズを反映した国際化を強力に推進するために、福岡県の今後の国際化に向けた新たな方向性を示す「ふくおか国際化推進プラン」を策定しました。

2 プラン策定の視点

(1) アジアの視点

アジア諸地域との連携を図り、ともに発展していくことを目指して、高度な産業や学術研究機関の集積を生かした拠点を形成するとともに、人材育成や環境技術協力などにより地域として国際貢献を果たすことが重要となっています。

(2) 地域活性化の視点

経済・社会のボーダレス化を背景に、地域間競争が激しさを増す中、知的創造力を発揮できる産業経済の拠点化、国際連携基盤の整備、地域の特性を生かしたネットワークづくりなどにより活力ある地域づくりが重要となっています。

(3) 国際理解の視点

グローバルなコミュニケーションが進展する中、我が国や諸外国の多様な文化、歴史などについての認識を深め、国際交流や国際協力を促進するとともに、在住外国人との協調などにより、広く深い国際理解に支えられた社会を築くことが重要となっています。

3 プランの位置付け

本プランは、1997年に策定した「福岡県国際化推進プラン」を改定するものです。また、県の基本計画である「ふくおか新世紀計画」を支える国際化政策分野の個別計画です。本プランの計画期間は2001年度から2005年度までのおおむね5年間とします。

4 プランの特色

- (1) 特色ある国際貢献・国際協力のため、アジアの将来を担う人材の育成を図り、環境技術交流を進めます。
- (2) 国際交流ネットワークを拡充するため、地域間交流や目的別交流など交流の多様化を推進し、人的ネットワークの形成を図ります。
- (3) 活力あふれる拠点づくりを推進するため、アジアの知的センターの構築、産業経済の拠点化、国際連携の基盤の整備の拡大を図ります。
- (4) ひらかれた地域社会を形成するため、国際感覚豊かな人づくりや外国人とともにくらす地域づくりを推進し、官民一体となった国際交流・協力推進体制の整備に努めます。

5 プランの策定体制

本プランは、有識者で構成する「福岡県国際化政策懇談会」の意見や、県庁内の関係課などで構成する「福岡県国際交流行政連絡会議」における検討を踏まえ、県民からの県政提案メールや「県政モニターアンケート」のほか、市町村、外国人などの幅広い分野からの意見を聴取した上で策定しました。